

アメリカの18世紀後半の出来事

W123E07 デイビッド・ノエル

18世紀後半にはアメリカ史における多くの重要な出来事が起きた。そして、ほとんどの出来事はイギリスの影響に関係がある出来事であった。しかし、18世紀後半に最も有名な出来事は世界のパワーバランスを変化させたアメリカ独立戦争である。

アメリカ独立戦争は、1775年にイギリスの植民地であったアメリカで、イギリスからの独立を求めて戦った戦争であった。始まったのは、主にイギリス王政と議会がアメリカからの代表なく徴収した税金にアメリカ人が反対した。これによって「代表なくして課税なし」という言葉が生まれた。その結果、アメリカで起きたのがボストン茶会事件であった。ボストン茶会事件は1773年にイギリス人が成立させたお茶の税金にアメリカ人が抗議したことであった。抗議するために、アメリカ人はイギリスの船に乗ってたくさんお茶を大西洋に投げた。この出来事はアメリカとイギリスの緊張関係の結果で、アメリカ史の流れを永遠に変えた。そして、アメリカ独立戦争の成功の結果、革命を考えていた他の国に革命を促した。

アメリカ独立戦争は、アメリカ史における重要な政治的な出来事でもある。そのひとつはジョージ・ワシントン大統領の台頭であった。ジョージ・ワシントンは独立戦争の重要な将軍で、当時の政治にたくさん影響があったので、アメリカの初代の大統領に当選した。さらに、アメリカの憲法も署名され、書かれた。アメリカ独立戦争後、アメリカは新しい国を支える新しい憲法を必要とした。そこで、1787年に建国の始祖たちは新しい憲法を作り、今日のアメリカになった。

アメリカと日本の卒業式

W123E07 デイビッド・ノエル

アメリカと日本の学校の卒業式は違う点が多いが、多くの同じ点もある。一番大きな違いはいくつ卒業式が行われるかだ。アメリカでは5月と6月の間に卒業式があるが、日本では3月にある。その理由はアメリカでは特にない。一方で日本では春に桜が咲くから、春には「終わりと始まり」という意味がある。だから、ほとんどの日本の学校は3月に卒業式が行われる。他の違いは女性の服だ。日本では、女性は男性とは違う服を着なければならない。しかし、アメリカではみんなは同じ学士帽とガウンを着なければならない。同じ点は卒業式後に親と先生は卒業している学生を見送って学校を出る時に先生は学生に「さようなら」と言われる。他の同じ点は卒業式に校

歌があることである。両方の国では卒業直前まで学生はたいてい校歌の歌詞を知らなくて、ばかにされないために歌うのを練習する。

入学式に対して、アメリカには日本のような卒業式はあまりない。日本では新入学生を歓迎する大きな式があるのが普通だ。しかし、アメリカの多くの学校は入学生のためのイベントがある。学校が始まる前に多くの学校は新入学生が1日半学校の練習をする日がある。ここでクラブを見たり、先生に会ったり、新しい友達を作ったりすることができる。それに時々賞がもらえるゲームもある。

日本とアメリカの卒業式は一見してとても違っていそうであっても、詳しく見たら、同じ点が多い。